資料２

令和３年度第１回　久喜市青少年問題協議会
発表事項一覧

＜現状＞	
①	非行による検挙・補導は、減少傾向にあるが、ＳＮＳにおけるいじめやトラブルの相談などが目立って増えている。
②	中央児童相談所管内における児童虐待通告の件数は若干減少している。
③	集団に所属する前の乳幼児を持つ世帯のフォローが気になっている。
④	子ども食堂がコロナ禍により、弁当や食材の配布になったことで、趣旨の一つである交流の機会が失われてしまった。
⑤	久喜全体として子どもたちの様子は落ち着いてきている印象がある。
⑥	学習用タブレットは様々なサイトへ自由にアクセスできるように見受けられる。
⑦	オンライン授業の普及により、不登校の児童等にも学習の機会が与えられるようになった。
⑧	コロナ禍により、会話の機会が減るなど、子どもたちと他者の関わりが減っているように感じる。
⑨	家庭の日絵画のコンクールは応募数が多く、家庭内の日常的な事柄をテーマにしたものが多くあった。
⑩	パトロールで子どもに会わない。早い時間に帰宅し、外出していないと推測される。
⑪	子どもたちの地域との関りが希薄になってきている。
⑫	地域から公的機関へ連絡・通報した後の対応状況が不明である。
⑬	学校で配布されるタブレットについては、学校での指針やフィルタリングを徹底しており、導入当初と比べてトラブルは少なくなっている。
⑭	集団になじめない子ども等が別室でオンライン授業を受けている場合がある。
⑮	個人のスマホ機器などについては、中学校１年生から絶え間なくトラブル等が発生している。

資料２

＜意見＞	
①	インターネット・ＳＮＳについて、大人自身が子どもたち以上に学ぶ必要がある。
②	子どもの精神疾患や発達障がいについて、教育者や保護者が適切な理解に基づき、適切な医療や相談機関に繋いでいく必要がある。
③	子どもの目線の変化を捉え、次へ繋げていくことが周囲の地域・大人の役目である。
④	高校生ももっと地域に関わっていかなければいけない。
⑤	直に顔と顔を合わせたやりとりや、教育が子どもたちにとって重要と思われる。
⑥	学校は、集団生活や勉強だけではなく、問題解決能力を身につける訓練の場でもある。
⑦	友人関係のちょっとしたトラブルに対して、子どもたち同士の解決だけにとどまらず、大人も誰か関わることが大事である。